

新基地建設を止める

賛成議員退場にしよう

憲法 私たちのものに

23日、東京都渋谷区の代々木公園で開かれた「さようなら原発 さようなら戦争 全国集会」。集会前のステージでの戦争法廃止への熱い思いを込めたリレートークは、拍手や歓声に包まれました。



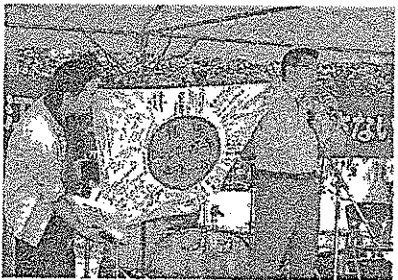
「戦争法は絶対に許してはならない」と訴える元山仁士郎さん(左)と23日、東京都渋谷区

さようなら原発 さようなら戦争 全国集会 リレートーク

戦争法廃止へ熱い思い

「世界一の軍事基地とたたかってきた沖縄は、戦争法が強行されても簡単に屈することはありません。こう力をこめるのは「琉球新報」編集委員の新垣毅さん。戦争法の先取りである辺野古の米軍基地建設を止めて、「安保体制を骨抜きにしよう」と訴えます。

元自衛隊レンジャー隊員の井筒高雄さんは「死んだらひつぎにかけるようにと寄せ書きされた日の丸を広げ、戦争法廃止を訴える井筒高雄さん(右)



寄せ書きされた日の丸を広げ、戦争法廃止を訴える井筒高雄さん(右) 23日、東京都渋谷区

ました。戦争法のもとでは、何か事が起きても隊員個人の責任となり、国は何も守ってくれないと批判。「戦争法に賛成した議員は次の参院選で退場してもらおう。野党がしっかり勝ち残るよう連帯しよう」と呼びかけました。

「戦争法の成立で、一番危険な集団は自衛隊に、一番危ない場所は沖縄になった」。この切り出したのは、軍事ジャーナリストの前田哲男さんです。沖縄の基地負担は軽減されるどころか、より過密化し、さらなる軍事化に向けて増強されると指摘。「安倍内閣の退陣をめざして、大いなる闘争を盛り上げよう」と語りました。

SEALDs(シールス)琉球の元山仁士郎さんは言います。声をあげ続けるのは、沖縄の人々が政府から受けてきた数々の仕打ちを、今度は日本全国の人々が受けようとしているからだ。「先人の不断の努力で自分たちが今もっている憲法と人権を私たちのものに、言葉にしていきましよう」